

会 議 録

会 議 名	第5回 第2次小金井市芸術文化振興計画策定委員会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課		
開 催 日 時	令和2年6月24日(水) 午後6時30分 - 午後8時30分		
開 催 場 所	オンライン会議ツール zoom を使った開催		
出 席 委 員	大澤寅雄 委員長 伊藤裕夫 副委員長 小林勉 委員 水津由紀 委員(途中退席) 野澤佐知子 委員 福沢政雄 委員 桑谷哲男 委員 小林真理 委員(途中退席) 戸舘正史 委員 西村徳行 委員		
欠 席 委 員	山村仁志 委員		
事 務 局 員	1 事務局運営補助 特定非営利活動法人S Tスポット横浜 小川智紀、田中真実、荒田詩乃 2 小金井市 コミュニティ文化課長 鈴木遵矢 コミュニティ文化課専任主査 吉川まほろ コミュニティ文化課主任 津端友佳理 コミュニティ文化課主事 小野智広 3 事業実施者 特定非営利活動法人アートフル・アクション 宮下美穂		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由	可	傍聴者数	0人
会 議 次 第	1. これまでの検討内容の振り返り - 付箋でテーマごとに重なった積み重ね - 全体として、どんなカテゴリーに分類できるか 2. あらためて「計画」とは何か - 現計画をどのように使いこなしてきたか - 計画の構造は、どのように作ればいいのか - 次回以降はどのように進めるのがいいのか 3. その他 今後の進め方について 意見交換等		

会 議 結 果	別紙のとおり
会 議 要 旨	別紙のとおり
提 出 資 料	配布資料 ・ これまでのテーマ別付箋まとめ ・ 小金井市の他の計画 ・ 小金井市以外の文化芸術に関する計画

## (開会)

【大澤委員長】4か月ぶりですね。すごく長い間やっていなかったなと実感します。この間は事務局と私とオブザーバー何人かでやりとりをしていました。久々なのでこれまでの議論の経緯をふりかえってみるところからやりたいと思います。しかし、コロナ禍で非常に長い期間、初めて体験するような生活を送っていたと思うので、そうした経験も踏まえて近況報告がてら、ひとり1分で文化と自分の関わりについて考えたことのシェアから始めたいと思っています。いま考えている計画の次の10年間を考える時に、いま私たちが関わっている文化からの影響も出てくるでしょう。みなさんの所感を教えてください。

【戸舘委員】戸舘です。愛媛の松山からです。首都圏よりのんびりしているけれど、お上に従順で保守的な気質でみんなきっちりしています。マスクしないとにらまれたりします。この間ずいぶん文化芸術領域の人たちがクラウドファンディングなど支援を求めるムーブメントがありまして、私自身も全国小劇場ネットワークに賛同しました。こういう動きの中で危惧しているんですが、当事者の方はそんなことは百も承知だと思いますが、文化芸術が大変、助けてっていうことが、そう思っていない人との溝をつくらないかが心配です。ぼくも文化芸術領域を生業にして生きている人間としては、その言い方というか旗の掲げ方をどうしたらいいか悩む日々です。

【福沢委員】こんばんは。小金井の自宅から参加させていただいています。コロナ禍が始まって、緊急事態宣言が出てから人と接触する行事が全て中止になりました。落ち込んでいる状況で、時間があつたものですから、昔DVDに落とした音楽やドラマや映画を見たんですが、主人公の言葉に勇気づけられます。芸術文化というのは、人間の生活文化にどう作用するのか考えたことはなかったのですが、こんなふうな人を励ましたり勇気づけたりするのかということ、この年にして初めて気が付きました。もう一つは朝日新聞の5月の記事の中で、アーティストが、生命の維持に必要であるということをドイツの大臣が言っていた、と。日本と文化の価値がだいぶ違うなって思いました。また文化と芸術は、これから計画を作るわけですが、どういうことだったらいいのか、誰がどうしてどう関与すればいいのか、考えないと難しいと思い、最後は落ち込みました。以上です。よろしくお願いします。

【オブザーバー宮下】いっぱいニュース見てて、日本ダメだな、メルケルかっこいいじゃんって思ったんですよ。で、ドイツに住んでいるアーティストとメールでおしゃべりしてね、彼曰く日本はいかにも日本っぽくって良いと思うって彼はいうんですよ。報道されているのは、メルケルはすごいし封じ込め成功と評価されているけど、実は東洋人や中国人に対しての差別はすごい苛烈だし、給付金も良いところはいいけど全然回ってないし、それに比べたら日本のマスクはどれだけバカだろうとみんなやっていこうっていうのはいいなって思ったんですね。結構目からウロコでしたね。物事は相対的に見ないといけないなって思った次第です。

【事務局・吉川】みなさまお久しぶりでございます。すごくメカオンチで、スマホにしたのが3月の初めで、ずっとガラケーだったので、こういう事態になってしまって使わないで済ませようと思っていたものも使わないといけなくて大変とっています。市役所もセキュリティが厳しくて zoom でのオンライン会議をうちの課がはじめて開催するので大騒ぎをしています。Wi-Fi が届かず、市役所はセキュリティの問題もあるし、遅れているのかなと感じました。美術館も3月に予定していた展覧会が中止になって探り探りやっています。個人的にはひきこもりの人なので、ステイホームといわれてもいつもと同じでした。ただ運動不足は厳しいなとっていましたし、高齢の方はこれで症状が悪くなったら大変だなと感じて過ごしています。

【小林真理委員】私の大学は早くもオンライン授業になってしまったのでひたすら zoom です。この前は博士論文の審査も zoom でやって、移動がなくなった分、会議と授業でパソコンの前から離れられない状況になりました。運動不足で太ってしまいました。この状況で普段やれないことをやってみようという気持ちにも私はなりまして、自治体がどんな文化政策や支援をやっているのかのサイトを立ち上げて、文化芸術の支えになるウェブサイトを作って、今も動いています。こういう状況になって文化と芸術が必要不可欠だってことを認識した人も多いと思うんです。文化と芸術をどうやっていくかを、小金井で考えていきたいと思います。

【事務局・荒田】みなさま、お久しぶりです。会議に子どもが乱入してくることがこの何か月間で増えたなとっています。この状況の中で、外に出る事が増えたり、野菜を育て始めたり、こういう状況の中で土とか手を動かすことが増えていて面白いなとっています。今日もお騒がせすることがあるかもしれませんが、よろしく願います。

【事務局・小野】みなさん、こんばんは。私の方では、担当としている宮地楽器ホールが3月から6月まで休館に至り、指定管理者と日々連携し今に至るという感じですね。市役所のイベントが秋まで中止が決まっており、そういったところもコロナで影響を受けているのが現状です。去年は台風があったり、今年はコロナがあったり、こういった経験しなかったことに関してどう対応していくのかを日々検討している次第です。

【事務局・津端】こんばんは。私は今コミュニティ文化課を離れて、経済課で中小企業への給付金をやっております。久々にこちらにもどってきました。こちらの会議は参加していこうと思っているのでよろしくお願いします。

【伊藤委員】：お久しぶりです。大学の非常勤も去年で終わったので社会との接点がなく、昨日3か月ぶりに電車に乗りました。家にいるか、公園にいるかして、社会から断絶している状況です。そういう状況で本を読んでいます。去年読んだんですが、秋野有紀さんが書いた「文化国家と「文化的生存配慮」という本があり、その書評を書くために読みました。ドイツの文化政策での文化的生存権という考え方に、問題点もあるけど興味を持っていまして、できれば、今回の計画の中にもそういった考え

方を入れることはできないかなという気がしています。また、昨日はSPACの評議委員会に行ってきたんですが、SPACが春の演劇祭をオンラインでやったんです。僕はかなり辛めのコメントをしました。オンラインでやっていくことは良いんですが、こういう機会に演劇とは何か、芸術とは何かを考えた方がいいんじゃないか。社会の状況にすぐ反応するのはいかなものかという発言をしました。

【西村委員】こんにちは。私も遠隔授業が5月のゴールデンウィーク明けからはじまり、座りながら不思議な日々を過ごしています。学生は驚異の出席率でいつも出られない学生が出ています。いつもは単位を落とすんじゃないかって学生も出ています。私自身が心配していることがあります。実は、学生がいつどれくらいの時間勉強しているかという数値が教員から見えるんです。こういうのは嫌だなと思っています。3月の終わりに新聞に中学生が投稿してまして、中学校2年生が、学校が長期休業になって嫌いなものに出会えなくなったと書いていました。学校ってそういうものに出会えるということに意味があるなって感じています。好きなものだけでなく嫌いなものに出会うということも役割なんだなと痛感したところがあります。

【水津委員】子どもたちに文化芸術を届ける活動をしている私たちには厳しい時代がやってきました。だからこそ何ができるかを模索しながらやっているところです。いまこういう状況だからリモートだとかバーチャルを推進するようになって、子どもの育ち、成長に生の出会いや相互関係は大事です。それをどう尊重していくかがこれからのテーマになると仲間と話をしているところです。

【野澤委員】私は子どもが2人とも学生なので学校が無くなるという状況がとても大変でした。やっぱり子どもたちにとって学校が全てだったので、それがぷつんと切れることが彼ら彼女たちを孤立させるんだなと思いました。授業が高校も大学もリモートで始まってからはいろんなコミュニケーションがあり、リモートで繋がっていることはかろうじて良かったなと思っています。

【桑谷委員】横浜に豪華客船が泊まったときに、コロナが世界の経済を止めたり、警察国家によって市民が殺されるということを誰がここまで予想したか。人間ってこんなに頭が悪かったのかなって思っています。人間の能力の限界ってあるんだなってことをつくづく考えていました。

【小林勉委員】ご無沙汰しています。私は声楽家なんですがこの間、十数本の本番が無くなりました。補償はあったんですが少なかったです。芸術とか音楽の契約の弱さを感じたこの数か月でした。ホールは収容人数の制限があって、今後どうして行こうか、合唱団の指導や公演をどうやっていこうか、悩みながら過ごしている状況です。

【大澤委員】大事なことをみなさんにお話ししたいので良かったです。みなさんの気持ちは次の10年間を考える土台として大事な部分だと思うのでこれは事務局とも整理して、次の計画の中に反映出来るような形にしたいです。ありがとうございました。

【事務局・小川】事務局よりいくつかご連絡です。水津委員が、20 時にご退室されるそうです。公募の長澤委員は市の職員になられたので、委員を辞任されます。

【事務局・吉川】7月1日号の市報で、欠員を募集しています。市民の方でいらっしゃいましたらお声がけいただけると嬉しいです。

### (1) これまでの検討内容の振り返り

－付箋でテーマごとに重なった積み重ね

－全体として、どんなカテゴリーに分類できるか

【大澤委員】事務局より資料の説明をお願いします。

【事務局・小川】グループ討議と意見の整理についてお話しさせて頂きたいと思います。毎回いろんなテーマで付箋に書いたことを憶えていますでしょうか？第1回は、検討すべき課題はなにかというテーマでした。第2回は市民参画・文化政策の変化、それからはけの森美術館、市民交流センター、社会包摂、学校教育で皆さんが思いついたことを付箋に貼り、各回の付箋をさらにテーマ別に整理をしました。お手元にある資料にまとめてあります。全部で439の付箋がありました。整理した結果ですが、全部で28の分類になっています。上から全体整理ABCと割り振ってみました。全体整理Aのうち、比較的上の方が抽象度が高いもの、下の方が具体的なものという形でABCで上下にわけてあります。市民自治のページをあけていただけますでしょうか。4番の市民自治は市民参画の話をしたときに出てきた問題です。「だからこそ市民が勝手にやっているんだよ」、「声が大きい人の話はダメ」、「平等性って難しい」って話も出てきました。社会包摂でも市民自治の話は出てきました。「遊ぶ権利がない」「見えない権利のはく奪」も市民自治の問題として考えられるんじゃないか、としてまとまっています。13ページはアクセスの話です。当初、アクセスの話は市民交流センターの話の中でアクセスの話になるのかなと、「足を運ばない人にどうアプローチすればいいのか」「はけの森美術館では場所が不便なので何か工夫をしたい」という話が出ていたのですが、社会包摂の議論をした時に「母子家庭の問題」「情報格差の問題」「ホームレスの問題」、「保健室登校」もアクセスの問題になるんじゃないかなとひとまとめにしています。22ページの社会包摂も見てくださいと思います。社会包摂の話をした回があるんですが、「似たような生活水準のまちだから見過ごされている排除があるんじゃないか」「あるいは社会的包摂ってことを考えなくても分断が問題なんだ」、「社会包摂って領域がわからない」「外国の市民へのアプローチがわからない」「学童保育と社会包摂」を考えればいいんじゃないか。それぞれの回で議論していたことは、縦割りより領域横断になるんじゃないかってことでこのペーパーをまとめました。

【大澤委員長】思い出していただき、自分の付箋がどこにあるのかを眺めて確認してもらえるといいと思います。ああこれは自分の意見だってことを見てもらっても良い

ですか。2、3分眺めてもらってもいいですかね。これを整理した作業のことを思い出したんですけど、こうやって整理した時になるべく抽象的なことと具体的なことをグラデーションで整理していくことがひとつの目的だったんです。これだけたくさんの方の発言、つぶやきがあるなかであまりにも大きすぎる話と具体的すぎる話を対等にするのは難しいので、仕分け集約しました。ご自身がお書きになったメモで、なにか思い出した事コメントをあった人がいたらご意見をお願いします。

【戸館委員】案外憶えていないもんですね。ぼくは公益性、公共性みたいなことについてずいぶん意見をした気がします。「公共性・広域性はマジョリティのためにあるのではない」など常日頃考えていることを言い方を変えて発言したことがいろんなカテゴリーの中に散っています。公共性は市民の側から立ち上がっていくとか、公共性や広域性を役所から脱構築していくことを考え望んでいる、ということを確認した時間でした。

【小林勉委員】こんなの書いたなっことを思い出しています。僕は自分が書いたのは整理されている感触です。僕はホールとかはげの森の話で付箋を書かせていただいたんですが、人が集まりやすい・使いやすい・使われやすい施設になっていく方がいいと思っています。ここに書いてあることがどう明確になるのかなってところは今後の話し合いかなと思っています。

【野澤委員】私が書いたものはちゃんと入っていると思います。私は情報の発信とか情報の伝え方、市民への周知がどうできるのかなって思っていたような気がします。これを見て思い出しました。以上です。

【水津委員】最近老眼が進みまして、黒抜き文字が全く読めないで自分が何をいったかがあまりよく分からない感じで、なんともですが、次回までに老眼鏡を用意したいと思います。

【福沢委員】実は憶えていなくてどれを書いたか思い出せないんですけど、ひとつ思い出したのは「文化芸術と観光・まちづくり」を書いたんですけど、10年前と今とでは文化芸術基本法が変わり、幅がひろくなりました。従来想定していなかった観光とか、まちづくりとか、幅広い芸術文化の活躍を期待する思いがあり、芸術そのものの範囲ではなく関連するものって意味で書かせていただきました。

【大澤委員長】「文化芸術と観光・まちづくり」を、文化芸術の範囲というカテゴリーでおさめるか、または隣接するさまざまな領域として整理も可能かもしれませんね。後半はどんなふうに計画を構造化するというか、目次建てをどうするか議論で今のような意見を踏まえてやろうと思っています。あとは有識者のみなさんにもご意見をいただきたいんですけど、小林先生いかがですかね。

【小林真理委員】私はどういう立場から話をすればいいのかわかんないですよ。交流センターの運営委員長をやっている立場があって、「もうちょっと人が集まれ

る場になれば良い」という話は運営委員会でもずっと出てきた話です。桑谷さんも出てくださっているんですが、より創造的な劇場にするより交流としてのホールの位置づけに持っていった方がいんじゃないかという話もあります。少なくともホールや美術館は今回計画に位置づける必要があるかなと思います。付箋は憶えていません。だけど一番興味があるのは、市民が何かをやりたいていった時にそれは私が口を出すことではなく、それをどうやるかってことに関心があって、それをどう推進していくかってことに積極的に意見をいいたいなって思っています。

【桑谷委員】僕は、公立劇場・演劇から考える発想が多いので、今回の付箋を考えるときにどうも僕の考えることが小さな世界にこだわっていたのかなって、付箋には書きにくいことをたくさん話しました。全体的には芸術文化に関わる大枠から発言すればよかったんですけど、劇場文化に関して発言させていただきました。劇場に来る観客が増えないということは問題としてあって、文化芸術に関しての理解者は増えてほしいと思っています。どうも0歳児から児童期までに文化芸術に触れ合うことが少なかったために、いきなり大衆文化芸術に入ってしまうと純粋芸術に到達しないんじゃないかなって思うことがあります。理解者を増やすときに、0歳児からの限界芸術をまじめに取り組んでいかなければいけないんだなってことを考えています。

【西村委員】ではよろしくをお願いします。私は文字だけだと思いつかなくて、一緒にお送りいただいた写真を見ながら文字の癖で見つけております。立場上学校教育でお話をしていまして、学校教育・社会教育のところに集まっているのかなってことで書きぶりをみると私だなと思うんですが、子どもたちと文化が関わられるのか、と考えると、地域での子育て事業など、いろんな道筋を確保するのは大事なかなと思いました。学校は授業を行うだけで手一杯なので、それが落ち着いた時にニーズが増えてくると思います。

【伊藤委員】何を自分が書いたか記憶にないんですが、おもしろい意見が出ているな、参考になるな、と思いました。視点としては2つあり、小金井市が典型的な例なんですけど基礎自治体、生活都市における文化振興はなんだろうかってことを改めて考えていくことが大事なかなと思います。小金井の場合には市民自身が文化に参加していくことを大事にした条例と計画を作ってきたのかなと思います。そのことは、今回のつぶやきのなかにも見られたのかなと思います。それから次に整理の仕方についてのポイントですが、計画とは基本的には目標と実現してくための手法の組み合わせだと思うんですが、目標はある面どこでも共通していて小金井の特徴が出しにくい分野です。手法は市民意識だとか公共性とかNPOだとか、中間支援組織とかさまざまな形で、手法から目標の所にもどる事が大事なかなと思います。今後の進め方としてそのあたりのことを詰めていくのがポイントかと思います。

【大澤委員長】非常に示唆を沢山いただいたと思います。今の伊藤さんからの発言が後半やろうとしていることにつながっていくいいブリッジになったと思います。



## 2. あらためて「計画」とは何か

－現計画をどのように使いこなしてきたか

－計画の構造は、どのように作ればいいのか

－次回以降はどのように進めるのがいいのか

【大澤委員長】後半は計画をどのような形で構築するか、骨組みを作っていく作業をします。小金井市ではいろいろな計画を作っています。計画の目次立てのような見出しがどんなふうに並んでいるのかをみなさんで眺めて、今回の第2次の計画はどうしようかと考えたいと思います。もうひとつは、現行の芸術文化振興計画の骨組みを考えると、現行の計画を具現化したアートフル・アクションのみなさんがどんな風に計画を使っていたのかを話を聞いてどんなふうに使いやすい計画にすればいいのかを議論したいと思います。事務局から資料の説明をお願いします。

【事務局・小川】それでは、「小金井市の他の計画」を眺めていただけたらと思います。2020年に第四次基本計画という行政のいろんな計画を束ねる長期計画が終わって、第5次になるタイミングで小金井市芸術文化振興計画を作ります。小金井市にはいろいろな計画があります。それを集めてみると、だいたい2020年で終わって、今みんなで一斉に新しいのを作っている所です。大事なところは、いろんな計画がある中で、小金井市芸術文化振興計画は期間が長いんです。他が5年くらいで切り替わるところを、10年というのはほかにほとんどありません。現在のものは、平成21年から令和2年までずいぶん長く使ってきた。新型コロナで明日どうなるかわからない状況ではありますが、10年先を考えて作りたいよねってことは考えていただけるかと思います。

もう一つの資料「小金井市以外の文化芸術に関する計画」は、都内の文化指針の状況を市町村のウェブサイトを見て作ったものです。都内の自治体で文化振興の指針があるところとないところがあります。小金井市は早く作りました。23区は23分の11の区で文化振興の指針があります。村で作っているところはないので、市と町合わせて30、そのうち11が文化振興の指針を作っています。ひとつひとつを見ていると全然力が入っていないものもあれば、わかりやすいものもあります。その中でもわかりやすいものを取り出してみました。八王子市・武蔵野市・小金井市の順です。八王子市は「文化芸術ビジョン」、文化芸術の振興にあたり、八王子文化芸術ビジョンとして、豊かな心を育む市民文化、市民が誇れる歴史文化の伝統・文化、多様な文化交流の推進と3つあるんですが調べてみると、八王子市の条例があって、条例を一番上に持ってきています。文化芸術がもっと身近になるための5つのこととして「ささえる」「そだてる」「つたえる」「こたえる」「とどける」とあり、下にこれまでやってきた市の取組が縦系列で並んでいます。武蔵野市は「文化を振興することによって目指すまちのありかた」とあり、「いつでも誰もが芸術文化にふれることができ、こころ豊かに暮らせる武蔵野市」とあります。武蔵野市は条例がないので、おそらく委員会で考えたんじゃないかと思います。その下にある基本的な考え方があり、これは武蔵野市の長期計画と違うことが書いてあり、方針を決めることで別の表現をしようとしてずいぶん考えたんじゃないかなと思います。また、これまでやってきたことだけじゃなく、今後考えられる主な取り組み例を書いてあるのはひとつの特徴です。

最後に、現行の小金井市の芸術文化振興計画を見てみます。左側の資料をご覧ください。一番上に理念があります。その下に具体的な理想像があって、事業のテーマ、事業視点、となつて、ぐちゃぐちゃだという気もしています。視点の下に講座とか拠点とかラボとか具体的な事業が書いてあります。だけど、この計画で小金井市が文化振興をどんどん進めてきておもしろいことがいっぱい起きている。これはどういうことなのか、これはアートフル・アクションの宮下さんに聞いてみたいと思います。

【大澤委員長】ありがとうございます。現行の計画を作った立場の小林真理委員がどう思っているのか、怒っているんじゃないかと気になるところではありますが、宮下さんお話をお願いします。

【オブザーバー宮下】小金井市の計画が何を指してどういうことをするか、目標と手段の話で行くと、他の自治体の計画はおそらく、ある目標を掲げて手段やスケジュールをイメージしているんだと思います。例えば、道路の計画をつくろうとか待機児童をゼロにするというミッションがあった時に、ミッションと方法に矛盾がない。だけど、「芸術文化振興でひととまちを豊かに、市民主体の芸術文化の振興に向けて」という文化の計画の場合には、待機児童と違って一年に一個施設を増やしていけばうまく行くのではなく、何をやれば豊かになるかがわかりません。だからいろんな方面、いろんな立場から考えて、そしてそれを実現するためにたくさんあるいろんなことなかで重点的に取り組む施策が示されています。大事だなと思ったのは、重点的に取り組む施策があるってことは重点的に取り組まない施策があるってことですよね。お盆をひろく作って、その中から状況に応じて物事が選択できる構造になっていると捉えました。

計画の体系図は皆さんお手元にありますか？小川さんが説明してくれた理想像と重点的に取り組む施策って構造で、どういうやり方をしてきたかです。普通はピラミッド状に積み重なっていく方式で行政の計画はできていると思うんですが、何年に何を實現しなきゃいけないっていう記述があまり無いので、10年という時間の長さでやってみて考えればいいってことが計画のフレームの中で許されているのかなって気がしています。

ひとつの事業をやってその次に実績が積み重なっていく、というミルフィーユみたいになっているわけじゃなくて、ひとつの経験がダイレクトに次の経験に繋がるわけじゃなくて、一回スピンオフしてこの動きから離れるんだけどある状況が整って、その人なり集団がもどってくるというダイナミックな人の動きがあり、一個一個の出来事が積み重なってはいないけど、ひとつひとつの経験が次に積み重なっていくとか、次はこういうふうにしようとか、トライアンドエラーがいつも繰り返されているってことが實現できたのかと思います。実際に事業をやるってことが大きな駆動力ってことで、プロジェクト自体が大きな駆動力になっていて、それをどうするかによって次が生まれていく。それは積み重なっていくんじゃなくて、破綻してどっかに行くかもしれないけど、どこか別のところに積み重なっていく。難しいことをやっているんじゃないけど、積み重なってビルができるというより、面的にいろんなレイヤーがひろがっているという形になったんじゃないかなと思っています。事業をひとつの駆動

力として考えることができたのが大きなことなんじゃないかと思っています。それが計画をうまく楽しく使わせていただいたっていう方法論だと思います。

**【小林真理委員】**

すいません、時間の関係で退出してしまうので、簡単に。ぐちゃぐちゃであることよりもちゃんと書かないと事業がなされないだろうなと思っていたということです。行政には期待できなかったからです。武蔵野市の方針をつくったときにも委員長でした。武蔵野市の方は、まったくうまくいかず、市長とも相当にけんかをしました。

**【水津委員】**

すみません、私も時間です。次回からスマホも使えるように設定します。申し訳ありません。

**【大澤委員長】**八王子と小金井の計画の違いを整理しますと、ビジョン、方針、計画は位置づけが違います。ビジョンという大きなものを描いたり、方針という道を決めたり、計画は予算根拠になるという側面もあります。10年という単位で計画を作っているのは、長いスパンで文化を考えることとして英断だったと思います。

もう一つは、八王子も武蔵野も、現行の事業をどう位置づけるかって枠組みがあって、それは、最初からアライを作って策定するのが行政の本音としてあるんじゃないかなと思います。そういう作り方をしていると夢を描いたり、10年先をイメージして考えるのは難しいかなって思うんですが、こんなキレイにまとまらないんじゃないかなって、八王子市とか武蔵野市とかを見て思います。

**【伊藤委員】**他のまちの計画に関わっているんですが、多くの場合、すでにやっている事業を位置づけるんですね。小金井のおもしろい場合は、これをつくった段階で、ホールが無かったり、はけの森美術館の位置づけもまだ不確定だったので、どのようなまちにしていくのかってことを、より具体的な理想像を具体的に書いています。方向性とか考え方は観念的ですが、具体的な創造ということをこれまでの実績が無かったがゆえに、試行錯誤するなかで作り上げていこうというものだった。したがっていろいろやっていく中で、非常にひろがっていくようなレイヤーが生まれていたと思います。次回において考えないといけないのは、駅前のホールができ、はけの森美術館も機能している、宮下さんたちのアートフル・アクションも実績を積んできた。いまある計画の中に位置づけるのか。しかし、そうすると他と同じものになっています。そうじゃなく、違った角度で揺さぶるような形で、社会包摂とか学校教育とか観光とかに結びつけたり、取り込んで現在あるものを揺らしていく方向にあるのか、選択として考えた方がいいと思います。今やっているものをアライとして計画に持っていくやり方はダメなんですよ。今やっていないものを計画の中に入れる、試行錯誤できるような余地を考える。すでに運営している文化施設もありますので、連携のなかにバランスを作っていくのがポイントかなと思います。

**【桑谷委員】**先ほどあった、計画の長さですが、僕は計画は10年のスパンで良いと思っています。やり切るのは10年くらいかかるのでその長さで変革していく。実現

具現する人のプログラムをたてる能力・知見に寄ることが多いので、いくら理想像を書かれていてもそれを現実に具現化していく人の能力によるんじゃないかなと思います。結局誰にやってもらうかに尽きるんじゃないかなと思います。芸術文化の振興でひととまちを豊かに、という現行の計画ですが、芸術文化は広いし、いろいろあるのですが、具体的に置き換えていかなければと思うんです。公立劇場に置き換えてみると、公立劇場とまちの共存ということになるわけです。劇場とまちをつなぐってことは、劇場とまちの活性化になりますし、劇場はまちをつくる・まちは劇場をつくるっていうふうに、だれかが具体化する人がいないとダメだなと思います。何で芸術文化をやるかは、他者を理解する、他者を愛する、という役割を担っていると思います。電通で亡くなった方がいますが、何が原因かなと思いますと、他者を尊敬したり、他者を思いやることをできないってことに集約されると思います。具体化していく力が無いとダメなんだなって思いました。

【戸館委員】シンプルにいうと、計画を扱う主体はだれか。主体にとっての使い勝手の問題だと思うんですね。計画の主体は、アートフル・アクション、宮下さんだったわけです。アートフル・アクションだったからこそ、このぐちゃぐちゃとしたものをうまく使えたわけです。今までやったことがないことを入れるという意味で、ホールと美術館のことを入れるとしたら、彼らが計画を使う時に、抽象的に列挙した方が良いか、具体的に書いたほうがいいかは考えた方が良いでしょう。往々にしてホールの方と話すともっと具体的なミッションを書いてくれといわれるんですけど。そこを僕らが選択するのか、行間を読み取って試行錯誤の余地を残して、チャレンジしてもらうのか。これから考えどころになるんじゃないかなと思って聞いていました。

【小林勉委員】ずっといろんなお話を聞かせていただいている、市民の側から聞くと10年の計画は今のコロナの状態で考えるのは難しいなっていうのが率直なところで。昨日もホールに行ったんですけど、現状小ホールでも50人しか使えないみたいな、これがいつ解けるのが見えていない状況だと先の話が見えないし分からないなって状況です。視点のところは難しくなってくるなって感想です。まだコロナの状況で難しいなと思う方が多いので、このzoomの会議が終わってから自分の中でもう一回整理したいなっていうのが率直な意見です。

【野澤委員】この状況で10年間を考えるのって難しいなっていうことが小林勉委員と同じ意見です。今の時期が特殊なのか、これを基本にした生活がつづくのかにもよります。人と集まるのが難しい場合もありますし。幅のあるものにした方がどんな状況になっても取り組めるんじゃないかなって、私個人は思いました。

【福沢委員】最初のページで、条例とかビジョンとか、作った時点を見ると、時代にギャップがあって、その間世界情勢が変わっています。比較的新しい状況を取り入れたのが、八王子市とか武蔵野市かなって感じがします。たしかに今みたいな不安定な状況を考えると10年っていうのは厳しいなって思いました。10年間で漠然とした計画を作ってもある意味でやりやすいと思いますが、わからないと思いました。

【西村委員】先ほどお話があった、既存のものを入れるとうまくいかないってのは面白いことだなと思いました。あるものを入れておくとなんとなくキレイに見えるけれど、そこをあえて入れないまとめの仕方で行くと、ある意味関わる人がなんとかしなきゃいけないという状況を作るのかなって思います。ひとつ分からないのは、具体的なことがあることで進む部分もあるのかなと。具体的な人や場所があるなかで、事業をやっていくうちに結果として枠組みの中に入ったという計画はあるのか。進められる部分の糸口はあってもいいのかなって、落ち着いたものにせずもやもやとしたところで始めることに賛成したいです。

【大澤委員長】コロナを経験している中で10年先をイメージすることが難しい、しかし、先ほどみなさんが話してくれた、コロナの状況で気づいたことは10年間変わらないでいてほしいって思うこともあります。文化は生命の維持に不可欠といたい。あるいは、理解のある方とない方のギャップを今後10年どれだけ埋められるのかってこともあるし、今気づけたことは10年先もきっとそうだし、こうありたいって強くいえることが私たちの手元にいまあると思います。宮下さんがいつてくれたことで印象的なことが「事業をすることが駆動力になる」と。計画が予算や人を整えて事業が可能になるということがあるけれど、事業をやっていることが駆動力になっているという考え方は大事だなって思っています。事業をやるのが目的じゃないわけですね。事業をやったことで、このまちが豊かになったのかとか、他者の尊重ができるようになったのか、他者理解を促す駆動力になったのかな、そんなことを考える計画ができるといいなと思いました。今日いただく意見で計画づくりが前進したように思えないかもしれません。しかし中身を作りこんでいく作業をスタートするにあたっては、どのくらい小金井独自の方向でみなさんの合意というかイメージを共有できたかというところに手ごたえがあって良かったです。この先の進め方について事務局から連絡です。

### (3) その他

－今後の進め方について

－意見交換等

【事務局・小川】この先の進め方について事務局から連絡です。現在日程調整をしまして、7月・8月集中的にやらせて頂けないかなと思っています。おそらく状況がこのままかなと思っていますので、日程が固まったらなるべく早くお返事するように考えています。

【大澤委員長】ありがとうございました。今日やってみて案外 zoom 行けるなって思います。ミュートのオンオフがみなさん慣れてくればスムーズなやり取りもできると思います。この先の進め方はなるべく市民委員の意見を聞いて行きたいと思っていて、市民委員の方がそろそろころを優先してやろうって判断になるかもしれません。それくらい凸凹でもいいから市民が作った計画を作りたいです。よろしくをお願いします。

【オブザーバー・宮下】2019年度に小学校でやった事業の報告をつくりました。プログラミングの授業をコンピューターで使わずにやるという事業をやりました。絶対おもしろいと思います。算数の時間にスライムを使って算数をやるってことをやりました。だけどコロナ禍でできなくて、先生とやったんですけど、偉大な発見がありました。表紙は吉田戦車に許可をもらって吉田戦車のマンガです。ぜひ読んでいただけたらと思います。数日内にお手元に届くといいなと思っています。

【事務局・鈴木課長】他の会議があり、遅れて参加して申し訳ありませんでした。途中からだったんですが、示唆に富むご意見をいただき今後役に立つと考えていました。コロナ禍の中で不自由な状況がありますが、みなさんにご協力いただいて良い計画ができるのかなと思います。

— 了 —